

「オホーツク生態系保全・日露協力シンポジウム」 開催のお知らせ

オホーツク海をはじめとする日本とロシアの隣接地域には世界有数の豊かな生態系があり、大気・海洋の循環、水産資源の供給等の形でわれわれの生活環境を支える重要な基盤となっています。近年、地球温暖化によって流水が減少し、また、アジアの経済開発による自然環境への影響が増大する中で、この地域における生態系の保全と持続可能な利用を確保することが重要な課題となっています。

日露両国は、この課題に共同で取り組むため、2009年5月のプーチン首相訪日の際に、協力の具体的な方向性を示した政府間の協力プログラム（「日本国及びロシア連邦の隣接地域における生態系の研究、保全並びにその合理的及び持続可能な利用の分野に関する日本国政府とロシア連邦政府との間の協力プログラム」）に署名しました。

この協力プログラムの下、外務省、環境省及び国際科学技術協力センター（ISTC）は、日露両国を代表する研究者の参加を得て、オホーツク海をはじめとする日露隣接地域の生態系の現状等について議論を行い、今後の協力のさらなる進展につなげることを目的として、以下のとおり北海道札幌市で「第2回オホーツク生態系保全・日露協力シンポジウム」を開催することとしましたので、ご案内致します。

<開催日時>

5月14日（土）～15日（日） 9:00～18:00
（お昼休み・コーヒブレークあり）

<開催場所>

場所：北海道大学 学術交流会館

（札幌市北区北8条西5丁目 札幌駅から徒歩5分）

<主催・後援>

主催：外務省、環境省、国際科学技術協力センター（ISTC）

後援：北海道

<参加方法>

入場無料（事前申込不要）

（ただし、人数が定員に達した場合には、お席を用意できないこともありますので、あらかじめご了承下さい。）

＜プログラムの概要（予定）＞（日露同時通訳）

5月14日（土）	
9：00～	主催者挨拶など
9：30～	基調講演 桜井泰憲 北海道大学教授・日本水産海洋学会長 「亜寒帯海洋生態系プログラム（ESSAS）の概要」
10：10～	1. 流氷の海をめぐる海洋物理化学 北海道大学低温科学研究所：三寺史夫教授 極東水文気象学研究所：Dr.クルツ（Dr. Kurts A.）他
11：35～	2. 海洋生態系と魚類・漁業 北海道立総合研究機構 中央水産試験場：鳥澤雅場長 水産総合研究センター 北海道区水産研究所 山村織生室長 サハリン漁業海洋研究所： Dr.ヴェリカノフ（Velikanov A.） Dr.キム・セン・トク（Kim Sen Tok） Dr.カエフ（Dr. Kaev A.） 他
15：00～	3. 海棲哺乳類Ⅰ：鯨類 東京海洋大学海洋科学部：加藤秀弘教授 他
17：00～	4. 鳥類Ⅰ：海鳥類 北海道大学：小城春雄名誉教授 他

5月15日（日）	
9：00～	5. 海棲哺乳類Ⅱ：トド・アザラシ類 東京農業大学生物産業学部：小林万里准教授 太平洋地理学研究所：Dr.トゥルーヒン（Dr.Trukhin A.） 他
11：10～	6. 鳥類Ⅱ：稀少鳥類 斜里町立知床博物館：中川元前館長 生物土壤科学研究所：Dr.ヴァルチュク（Valchuk. O） 他
13：30～	7. 北海道・ロシア極東の陸棲哺乳類Ⅰ：ヒグマ 北海道立総合研究機構 環境科学研究センター：間野勉主幹 太平洋地理学研究所：Dr.セリョートキン（Dr.Seredkin I.） 他
14：40～	8. 北海道・ロシア極東の陸棲哺乳類Ⅱ：コウモリ 北海道大学 北方生物フィールド科学センター：河合久仁子研究員 生物土壤科学研究所：Dr.チウノフ（Dr.Tiunov M.） 他
15：30～	9. 生物多様性保全のために 中部シホテアリン世界遺産地域長： Dr.アスタフィエフ（Dr.Astafiev A.） 他
17：00～	総合討論